第9課　天地創造－その2

【暗唱聖句】

「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す」詩編19編2節

【日曜日・地球は平らなのか】地球は平らだと主張する人たちに聖書が語っていること。

古代の人々は地球は平らだと考えていました。今日でも、まだそのように考えている人たちもいるようですが、宇宙から地球を撮影すれば、実に美しい球体であることがわかります。フラットスペース論者は、NASAの陰謀で写真を細工していると主張していますが、その根拠を示すことはできません。では、聖書は何と言っているのでしょうか。ヨブ記26:7では、まず「大地を空虚（何もないところ・口語訳）の上につるされた」と述べています。またイザヤショ40：22では、「主は地を覆う大空の上にある御座に着かれる」とありますが、「地」と訳された言葉は、原語のヘブル語の直訳では「地の円」です。聖書は、わざわざ地は円いと述べているのです。さらに、箴言8章27節では、「わたしはそこにいた。主が天をその位置に備え、深淵の面に輪を描いて境界とされた」と、「輪」という言葉で書かれてあります。新改訳では「円を描かれたとき」となっています。なお、ヨハネの黙示録7:1の「大地の四隅」や20：8の「地上の四方」という表現がありますが、これは比喩的表現であり、地球が平面を現わしているわけではありません。

【月曜日・古代の文献における天地創造】古い文献や伝承に聖書と似た物語があるが…

古代の文献には、聖書の天地創造やノアの洪水物語と似たような物語が見られます。そのため創世記は、そのような他の文化からの借り物ではないかという意見があるようです。しかし、もし似たような物語の文献や伝承などがあるとすれば、むしろそれは聖書がベースになっていると考えるべきでしょう。また、根本的な部分が違う場合は、全く異なる物語だと考えるべきでしょう。たとえば、「アトラ・ハシース叙事詩」には、「神々が人間の代わりに働き、荷を担っていた頃、神々の荷はあまり重く、その働きはあまりにも過酷で、困り果てていた…出産の女神に子孫を造らせよう、そして神々の荷を人間に背負わせよう」とあります。天地創造や神様と人間との関係など、明らかに聖書のそれとは異なるので、全くの作り話ということです。

【火曜日・「創世記」対「異教信仰」】天地創造4日目に、太陽や月という言葉を使わなかった理由

「神は言われた。「天の大空に光る物があって、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ。天の大空に光る物があって、地を照らせ。」そのようになった。神は二つの大きな光る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた」創世記1:14～16

この天地創造の４日目において、太陽と月が創造され、昼と夜、季節のしるしとなるようにされたことが書かれてあります。太陽あるいは月という言葉をあえて用いていないのは、ヘブライ語における太陽や月が、古代中近東やエジプトの神々を現わす言葉であったからだと考えられます。

【水曜日・天地創造と時間】

聖書にはたくさんの系図が書かれてあります。創世記5章ではアダムから始まったノアまでが、創世記11章には、ノアの子どもたちからアブラハムまでの系図が書かれており、一部の子孫が途中で途切れることなく網羅されています。系図の書き方にはパターンがあって、「Aは何歳になったときBをもうけた。Bが生まれたのち何年生きて、息子や娘をもうけた」という具合です。列王記上1章の系図は名前の列挙ですが、これと合致します。一人一人をそれぞれの年齢をもとに遡っていくと、アダムの創造された年代がわかってくるわけですが、そうすると、進化論が教える人間が誕生した時間よりも、アダムが誕生したのが遥かに短くなってしまいます。進化論的創造論を主張する人々は、この系図の時間をなんとか引き延ばすことができないかと試みるようですが、それは聖書的ではありません。

【木曜日・聖書の中の天地創造】

新約聖書の記者は、何度も天地創造の物語から引用しています。いくつかの例を挙げると、マタイによる福音書19章4節では、「イエスはお答えになった。「あなたたちは読んだことがないのか。創造主は初めから人を男と女とにお造りになった」と、当たり前のことですけれども、イエス様が創造主が初めてに人を男と女とに造られたと言及した言葉を記録しています。また、使徒言行録 14章 15節では、「この神こそ、天と地と海と、そしてその中にあるすべてのものを造られた方です」と、パウロが天地は神様が創造されたのだと述べています。さらに、ペトロの手紙一3章 20節では、ペテロが「この霊たちは、ノアの時代に箱舟が作られていた間、神が忍耐して待っておられたのに従わなかった者です。この箱舟に乗り込んだ数人、すなわち八人だけが水の中を通って救われました」と、ノアの洪水の記録が事実に基づくものとして述べています。このように新約聖書の記者たちは、創世記の物語を文字通りそのまま本当にあった出来事として信じ受け止めています。それゆえ、わたしたちも同じように、創造論を文字通り受け止めていくことが大切です。